

平成 26 年度（2014 年度）事業報告

（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

栗山尚一・アジア調査会会長が平成 27 年 4 月 1 日、肺炎のため 83 歳で急逝されました。心より哀悼の意を表します。

アジア調査会は 26 年 9 月に創設 50 周年を迎えました。9 月 22 日には東京・日比谷の帝国ホテルでアジア調査会創立 50 周年記念特別講演会とパーティーを開催し、福田康夫元首相に「アジアの中の日本」の演題で講演していただき、麻生太郎元首相にはご挨拶をいただきました。会合にはアジア・太平洋賞に特別協賛をいただいているスルガ銀行の岡野光喜社長、猪口孝・アジア研究委員会委員長、ブルース・ミラー駐日豪大使ら会員、理事、アジア・太平洋賞の歴代受賞者、選考委員、特別協賛・協賛・協力企業代表ら 100 人以上の方が参加されました。

この間、国内外では平成 26 年 12 月に行われた衆院総選挙で、直前の政治資金問題を原因とした閣僚のダブル辞任にもかかわらず、自民・公明の与党が大勝し、第 3 次安倍政権は順調な滑り出しを見せました。27 年 4 月の統一地方選でも自民党が民主党との対決となった 2 知事選に勝利。4 月末の日米外務・防衛大臣会合（2プラス2）で新日米防衛協力の指針（ガイドライン）を決定し、安倍首相が訪米しての日米首脳会談、歴代首相初となる米上下両院合同会議における首相演説も成功裏に終わりました。日経平均株価が一時 2 万円台を回復する経済復調とあわせ、安倍政権は一見盤石に見えます。しかし、安保法制改定や新ガイドラインという対米公約は国会の了承を得ておらず、後半国会で与野党が対決する最大のテーマとなりました。イスラム過激派組織「イスラム国」（IS）による日本人人質殺人事件などイスラム過激派によるテロ事件が多発、「テロとの戦い」も待ったなしであり、内政外交の先行き不透明感は払拭されていません。

アジア調査会講演会は、日中関係の今後について河野洋平・元衆院議長に、安倍政権の目指す政治について菅義偉・官房長官に、わが国の防衛・安全保障政策について小野寺五典・防衛大臣（当時）に、地方創生について石破茂・地方創生大臣に、国土強靱化とインフラ輸出などについて二階俊博・自民党総務会長に、それぞれお話をいただきました。また、アジア調査会主催の国際シンポジウム「東アジアの経済統合と日本、台湾の役割」は環太平洋パートナーシップ協定（TPP）などが大きなテーマとなりました。

アジア研究委員会でも井尻秀憲・東京外国語大学教授が「台湾の学生運動と中台関係の行方」のテーマで、また、渡辺靖・慶應義塾大学教授が「米国の今後の動向」のテーマで米中間選挙後に報告し、米国と中国という今後の日本の命運を左右する両大国の分析に大きなエネルギーを割きました。

第 26 回アジア・太平洋賞は葛兆光氏の『中国再考 その領域・民族・文化』（岩波現代文庫）が大賞に選ばれ、葛氏の記念講演などを行いました。また、『アジア時報』ではカフカ賞を受賞し「中国人文学者の良心」といわれる中国の作家、閻連科氏の講演録を『沈黙の喘ぎ——私が辿ってきた中国と文学』と題して連載し、中国の抱える様々な問題を多面的に考える材料を提供しました。

(1) 調査・研究

◇ アジア研究委員会

年度2回の定例会を開催し、研究委員らによる報告（キーノートスピーチとコメント）と討論の全容を『アジア時報』に掲載しました。具体的には台湾の学生が立法院を占拠した事件に象徴される新しい中台関係の分析と今後の展望について、が1回。米中間選挙後の政治・社会状況について外部の米国研究専門家からスピーチをいただき、討論したのが1回です。

平成26年度（2014年度）アジア研究委員会の報告

平成26年（2014年）

① 「台湾の学生運動と中台関係の行方」

キーノートスピーカー 井尻 秀憲（東京外国語大学教授）

コメンテーター 金子 秀敏（毎日新聞客員編集委員）

5月26日

② 「米国の今後の動向」

キーノートスピーカー 渡辺 靖（慶應義塾大学教授）

コメンテーター 猪口 孝（新潟県立大学学長）

12月17日

◇ 講演会

講演会を6回開催しました。また、アジア調査会が主催するシンポジウムを東京で1回開催しました。講演会の講師は日本人が6人です。中でも福田康夫元首相はアジア調査会創立50周年記念の特別講演でした。この時は麻生太郎元首相、ブルース・ミラー駐日オーストラリア大使のご挨拶も「ミニ講演」ともいえるような内容でした。

国際シンポジウム「東アジアの経済統合と日本、台湾の役割」は東京・内幸町の日本記者クラブホールで行われ、多くの外国の方々も参加されました。

1. 回数／7回
2. 講師／日本人 10人
外国人 1人
3. 講演場所／東京7回

平成26年度（2014年度）講演会

〔東京〕

平成26年（2014年）

① 河野 洋平（元衆議院議長）

「現在の日中関係を考える」

5月29日 東京・帝国ホテル

② 菅 義偉（内閣官房長官）

「安倍政権の目指す政治」

6月23日 東京・帝国ホテル

③ 小野寺 五典（防衛大臣）

「わが国の防衛・安全保障政策」

8月4日 東京・帝国ホテル

④ 福田 康夫（元内閣総理大臣）

「アジアの中の日本」

9月22日 東京・帝国ホテル

平成27年（2015年）

⑤ 石破 茂（地方創生大臣）

「地方から創生する我が国の未来」

1月16日 東京・帝国ホテル

⑥ 二階 俊博（自民党総務会長）

「国土強靱化 海を渡る」

2月25日 東京・帝国ホテル

平成 26 年度（2014 年度）シンポジウム

張 俊福（台湾經濟部國際貿易局局長）
伊藤 元重（東京大学大学院教授）
川崎 研一（政策研究大学院大学政策研究院シニアフェロー）
小椋 和平（和台コンサルタンツ代表取締役）
坂東 賢治（毎日新聞論説室専門編集委員）

「東アジアの経済統合と日本、台湾の役割」

7月10日 東京・日本プレスセンター

(2) 出 版

月刊情報誌『アジア時報』を10回発行（7・8月号と1・2月号は合併号）しました。アジア研究委員会や講演会、主催するシンポジウムの全容を収録しただけでなく、他の団体が主催するシンポジウムや講演、勉強会などにもアジア調査会が積極的に後援し、その詳細を『アジア時報』に掲載しました。また、時事問題の多面的なとらえ方を法人・個人会員に提供すべく、インタビューや寄稿も積極的に収録しました。

(3) 事 業

◇ 第 26 回「アジア・太平洋賞」

アジア調査会創立 25 周年記念事業として、平成元年に創設され、内外の優れた著書を顕彰してきた「アジア・太平洋賞」（特別協賛・スルガ銀行、協賛・日本生命、三菱商事 協力・ANA）は、学界・出版界等の注目のもと、26 回目を迎えました。応募総数は 106 点と、国際的にも注目される賞となってきました。

第 26 回の受賞著書は下記のとおりで、平成 26 年 11 月 11 日に東京で表彰式を行いました。

《 大 賞 》 賞金 200 万円

『中国再考 その領域・民族・文化』（岩波書店）

葛 兆光（64 歳） 復旦大学文史研究院院長（中国・上海）

《 特 別 賞 》 賞金 30 万円

『ビルマ・ハイウェイ 中国とインドをつなぐ十字路』（白水社）

タンミンウー（48 歳） 歴史家

『鑑の近代 「法の支配」をめぐる日本と中国』（春秋社）

古賀 勝次郎（67 歳） 早稲田大学社会科学総合学院教授

◇ 毎日講演センター

各種の講演会や研修会に講師を斡旋する「毎日講演センター」は、不透明な国内政治、経済状況を反映して、各種団体、企業、自治体等からの依頼に応じて、政治・経済などの権威ある講師を派遣し、情報提供に貢献しました。

会 計 報 告

平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日までの会計年度における総収入は 39,391,548 円、総支出は 44,560,426 円、差引損失金は 5,168,878 円となり、これを次期に繰り越しました。

附 属 説 明 書

該当事項がないため、記載を省略します。